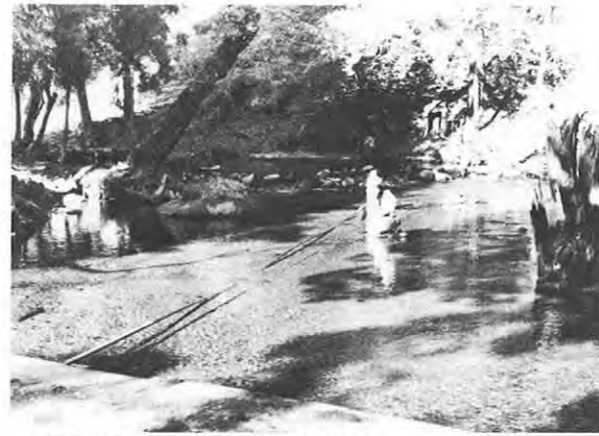




▲乙宮神社



▲毎秒0.5tの湧水がある池山水源



▲大規模総合レジャータウンが着工された(一望三山台)



▲体育館を備える南部地区公民館

▼畜産環境整備事業(北九畜産)



産山村はその昔、阿蘇大神のお産ま  
れになったところと言い伝えられていま  
す。「御前様が産期に近づいたから八町  
下の漆にお下りになって、此処に産屋を  
たてて御子をうまれた。そして大きな平  
釜にお湯をたっぷりとかかし、それを石  
のお湯舟に汲み入れてお子様をお洗い申  
し上げた。そこを湯の本、お湯を流した  
処を湯の尻という。その石舟は今、大半  
が土に埋もれて舟の形は見えないけど御  
湯舟という地区名はこれから出来たとい  
う。お湯をわがした平釜は平川神社に祀  
られ、平釜が訛って平川(地区名)にな  
ったという。それからお湯を汲んだ柄杓  
は田になげうった後、そこに柄杓田神社  
が建てられたが、村々合併時に片俣神社  
と改められたという。」

当地は肥後と豊後との境界にあり、戦  
国時代には争いが絶え間なく中世紀以降  
も戦乱の中にあった。藩政時代は久住手  
永の管轄下であり、明治三年の藩政改革  
によって久住手永を改め、久住郷として  
各村には里正が置かれた。明治四年三月  
の廃藩置県の際に久住地方と産山地方  
は別離され、久住地方は大分県に、産山  
地方は熊本県の管轄下に置かれた。大小  
区制の後、明治二十二年町村制の施行に  
伴い産山地方の産山村、田尻村、山鹿  
村、大利村、片俣村の五ヶ村が合併し、  
産山村となり今日に至っている。

産山村は本県の最北東部、阿蘇郡の北

東部に位置し、阿蘇外輪と九重連山に挟  
まれた高原型山村であります。

総面積六十・六平方キロメートル、人  
口千九百八十一人(昭和五十五年国調概  
数)、世帯数五百八戸と県内でも過疎化  
の顕著な小さな村です。

標高七百八十米からは、毎秒〇・五ト  
ンの湧水を誇る池山水源、山吹水源が村  
を分けて東へ流れ、大野川に合流し別府  
湾に注いでいる。

また、熊本市からは七十キロメートル  
の遠隔地にありますが、北方にやまなみ

クタールを誇る草地畜産の定着化を収  
め、最近では肥後の赤牛による肥育まで  
の一貫経営がなされるようになった。

第一次農業構造改善事業で養蚕を南部  
台地に導入し、生産体系に産山方式と呼  
ばれるものを開発し、高原養蚕の先駆的  
役割を果たして朝日農業賞に輝いた。ま  
た、最近では原野等の高度利用による高  
冷地野菜の生産が盛んである。

教育関係では本年度に総事業費二億七  
千万円をかけて北部小学校の校舎改築を  
実施、これを最後に小・中学校の校舎の

### 明るく豊かな 二十一世紀へ向けて

ハイウエーが走り、南端部を国道五十七  
号線が走るため比較的車輪交通には便利  
な所です。最近では民宿や避暑地として  
多くの人々が訪れています。

産山村の産業は農林業が主で、畜産、  
米、養蚕、椎茸などがあります。

農業生産額の一位を占める畜産は昭和  
三十九年からの第一次農業構造改善事  
業、昭和四十一年からの国営草地開発事  
業、さらに昭和五十一年からの広域農業  
開発事業によって、草地造成五百八十へ

近代化を完了し、さらに充実した義務教  
育を推進します。

社会教育面ではコミュニティの場を  
充実することによって、村民の連帯意識  
の高揚と体力づくりを理念に施設の整備  
をはかっています。

昭和五十一年に結婚式場を備えた基幹  
集落センター、昭和五十二年に屋内体育  
館を兼ねた南部地区公民館、昭和五十四  
年に農業村落緊急対策事業によるグラン  
ドを併設した産山地区公民館を建設し、  
村民による活発なコミュニティー活動が

行われております。  
また、村内四ヶ所の総合グラウンドに夜  
間照明施設を配備し、さらに活動を充実  
させております。

近年の著しい過密、過疎化は社会問題  
として大きくクローズアップされており  
ますが、三全総における自然環境、生活  
環境、生産環境の調和のとれた地方振  
興、いわゆる定住圏構想を適格にかつ重  
層的に対応する開発構想が現在進められ  
ております。すなわち、大衆資本の導入  
による村民のための村民の観光開発をキ  
ャッチフレーズとし、企業ベースによる  
総事業費二百五十億円の巨額を投下し、  
波及効果による第一次産業の振興と、増  
大する余暇ニーズに対応する観光産業の  
開発があります。

この開発の基調はふるさとの復興をめ  
ざすもので、八百七十六室を有する最大  
規模の宿泊施設、古代を再現する古代の  
村、将来のエネルギーを予測するエネル  
ギー館、村民が参加する観光牧場などの  
地場産業、別途企業による総面積八十八  
ヘクタールからなるパブリックゴルフ  
場、さらに村も総合運動場の経営によっ  
て誘客に一役を担うことになっていま  
す。

このように、多種多様な構造改革を実  
現し、明るく豊かな二十一世紀を創造す  
ることに努力を重ねております。